

## 研究所の沿革

法人としての動き	主な事業	出版関係	歴代理事長
1958年4月21日 安城市から市立種鶏改良孵化場の移管を受け、文部省の認可により名古屋畜産学研究所として財団法人設立。研究調査部と普及事業部(収益事業)の組織体制(名古屋大学農学部、同大学本部、愛知県畜産団体、安城市などからの選出役員で構成)安城市池浦町	研究事業(ニワトリの交雑利用)と共に収益・普及事業(種鶏増殖、孵化、初生雌雄鑑定など)		初代 増井清(1958～1966)
1962年 事業の発展に伴い用地の手狭から安城市和泉町へ移転		1964年 日本在来家畜調査団報告第1号刊行	
1965年 貿易の自由化で収益事業低迷により、この部門を(株)名古屋畜産学研究所へ委譲して切離す	1966年 韓国の在来家畜調査に参加 1969年 米国における野鶏飼育調査 1970年 フィリピンの在来家畜調査	1966年 日本在来家畜調査団報告第2号 1969年 在来家畜調査団報告第3号 1970年 在来家畜調査団報告第4号	2代 中條誠一(1966～1971)
	1972年 イラン・アフガニスタンの畜産事情調査 アラブ連合・欧州諸国の畜産事情調査	1972年 在来家畜調査団報告第5号	3代 五島治郎(1971～1975)
	1974年 インドネシアの在来家畜調査 インド、タイ、ネパール、フィリピンの畜産事情調査	1974年 在来家畜研究会報告第6号	
	1975年 木曾馬第三春山号の剥製保存への援助 マレーシアの在来家畜調査		4代・保田幹男(1975～1978)
	1977年 トカラ列島口之島野生化牛の調査 インドネシアの在来家畜調査 天然記念物見島牛の保存と利用の調査研究	1976年 在来家畜研究会報告第7号	

法人としての動き	主な事業	出版関係	歴代理事長
<p>1990年 研究所の用地売却、再度移転の決定</p> <p>1991年 設楽郡設楽町に土地取得、施設整備開始</p> <p>1993年 安城市から設楽町へ移転</p> <p>1997年 寄付行為の改正（住所と会計年度の変更）</p>	<p>1980年 台湾在来犬の遺伝学的調査</p> <p>1981年 カナダの肉牛育種調査 韓国在来犬の調査</p> <p>1982年 韓国の実験動物と家畜の現状調査</p> <p>1990年 タイにおける家畜の血液型研究調査 同年 ロ之島野生化牛3頭を名古屋大学農学部へ寄付</p> <p>1991年（財）宇宙環境利用推進センターより「鳥類の無重力状態における飛翔反応」に関する委託研究を受託 韓国野性、近交系マウスの調査</p> <p>1993年 中国在来豚の調査 ロ之島野生化牛6頭を名古屋大学農学部へ寄付</p> <p>1994年 フィリピン・ミンドロ島のタマラオ保護活動・地球環境基金からの助成事業の実施（'95年迄）</p> <p>1995年 中国北部における在来家畜の調査 「木曾馬の保存と利用の研究」の一環として健康乗馬と福祉乗馬の研究補助 腎臓異常マウス (FGS) の普及利用のため(株)日本クレアと開発・販売で契約締結</p> <p>1996年 中国の草地改良と飼料開発の調査研究</p> <p>1997年 中国河南省での酪農と養鶏生産技術指導の援助</p> <p>2000年 名古屋市科学館の特別展示に協力、家禽類の剥製を貸与</p>	<p>1978年 在来家畜研究会報告第8号</p> <p>1980年 在来家畜研究会報告第9号</p> <p>1982年 在来家畜研究会報告第10号</p> <p>1986年 在来家畜研究会報告第11号</p> <p>1988年 在来家畜研究会報告第12号</p> <p>1990年 在来家畜研究会報告第13号</p> <p>1992年 在来家畜研究会報告第14号</p> <p>1994年「動物集団の遺伝学」（野澤謙著・名古屋大学出版会）出版</p> <p>1995年 在来家畜研究会報告第15号</p> <p>1998年 在来家畜研究会報告第16号</p> <p>1999年 在来家畜研究会報告第17号</p> <p>2000年 在来家畜研究会報告第18号</p> <p>2001年 在来家畜研究会報告第19号</p>	<p>5代・近藤恭司 (1978～1993)</p> <p>6代・富田 武 (1993～2009)</p>

法人としての動き	主な事業	出版関係	歴代理事長
2008年 内閣府による法人移行準備開始	<p>2005年「愛地球博」学術展示、市民プロジェクト開催に協力</p> <p>2009年 ウシ抗病性遺伝子の海外調査（理化学研究所・チリ）に参加 「アジアの在来家畜」の編集、出版に協力</p> <p>2010年 中国内モンゴル自治区での在来羊の遺伝学的調査 家畜改良事業団と共同で牛の血液型研究 在来家畜研究会と共同でフィリピン野鶏と在来山羊の遺伝学的調査 在来家畜研究会と共同でカザフスタンの家畜調査(第1次予備)</p>	<p>2002年「家鶏・野鶏解剖学図説」(保田幹男著・東京大学出版会) 出版 在来家畜研究会報告第20号</p> <p>2004年 在来家畜研究会報告第21号</p> <p>2005年 在来家畜研究会報告第22号</p> <p>2006年 在来家畜研究会報告第23号</p> <p>2007年 在来家畜研究会報告第24号</p> <p>2010年 在来家畜研究会報告第25号</p>	<p>7代 並河鷹夫 (2009～2011)</p>
2011年 法人移行の基本計画の承認	<p>2011年 口之島野生化牛の血液型、DNA多型および体型特性調査 カザフスタンの家畜調査(第2次予備) 口之島野生化牛の遺伝学的調査 在来家畜研究会報告のPDF化の実施 アジアの在来家畜写真集編集のためデータ収集の開始</p>		<p>8代 山本義雄 (2011～現在)</p>
2012年 定款(案) 承認	<p>2012年 中国揚州大学との共同で山東省産泗水羊の形態・遺伝学的調査 口之島野生化牛の疾患関連、経済形質遺伝子型検査、DNAサンプルの共同利用体制準備</p>		
2013年 内閣府へ移行申請	<p>2013年 タイ赤色野鶏の遺伝学的調査 文部科学省科学研究費によるカザフスタンの家畜調査(第1次本調査)への参加 口之島野生化牛の生息状況調査 ミャンマーの在来馬に関する遺伝学的調査への参加</p>	<p>2013年 在来家畜研究会報告第26号</p>	

法人としての動き	主な事業	出版関係	歴代理事長
2014年3月 内閣府から一般財団法人家畜学研究所への移行認可 2014年4月1日 財団法人名古屋畜産学研究所解散 一般財団法人家畜学研究所設立	琉球猪の集団遺伝構造の調査研究への助成		